

|                       |   |
|-----------------------|---|
| 事案名                   | 小倉陸軍造兵廠（北九州市）の事案（福岡県40-6-1）   |
| フォローアップ調査資料           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「兵器及び弾薬員数表」〔1〕</li> <li>・「『旧軍毒ガス弾等の全国調査』のフォローアップ調査について」平成15年11月4日〔3〕</li> </ul>   |
| 追加資料                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・『北九州市における外因性内分泌攪乱化学物質の野生生物に与える影響に関する検討委員会 最終報告書』〔A1〕</li> <li>・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔A2〕</li> <li>・『平成16年度国内における旧軍毒ガス弾等に係る情報収集及び取りまとめ業務報告書』〔A3〕</li> <li>・『北九州市史 近代・現代（行政・社会）』〔A4〕</li> <li>・「小倉地区の主な軍事・軍需施設」〔A5〕</li> <li>・『小倉と原爆 軍都小倉と毒ガス爆弾風船爆弾製造の記録』〔A6〕</li> <li>・30世紀の森づくり 山田緑地ホームページ<br/>(<a href="http://www.kpfmmf.jp/yamada/outline/index.html">http://www.kpfmmf.jp/yamada/outline/index.html</a>)〔A7〕</li> <li>・「自衛隊施設の使用実態等調査書（業務資料）」〔A8〕</li> <li>・『平成16年度B/C事案における第2次地下水調査業務 報告書』〔A9〕</li> </ul> |
| 平成15年度フォローアップ調査報告書の要約 | <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和20年10月に、小倉陸軍造兵廠には、催涙筒60本が存在していたと記載されている〔1〕。</li> </ul> <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉陸軍造兵廠跡地には、いくつかの旧工場等が現存しているが、それ以外は高速道路が走り、また公的機関や教育施設が建てられている。また、付近を流れる河川の総砒素の値は、<math>&lt; 0.005 \text{ mg/l}</math>であった（環境基準：<math>0.01 \text{ mg/l}</math>）〔3〕。</li> </ul>   |
| 新たな情報                 | <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「毒ガス弾については、曾根製造所で填毒し、当初山田で40,000発を完成弾として満州へ送った。その際2,000発づつに分けて野積みにした。全部満州へ送ったので1発ものこっていないと思う。」との記載がある〔A1〕。</li> </ul> <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉陸軍造兵廠跡地周辺では昭和38年10月1日に毒ガス弾（イペリット×2）の発見事例がある〔A2〕。</li> </ul>   |

### 現在の状況

- ・小倉陸軍造兵廠跡地は現在、敷地のほぼ中央を北九州市高速道路が横切り、その北側には、公園、公共施設、北九州市庁舎、小倉北区役所庁舎、北九州市警察部などの公的機関及び教育施設があり、南側は主として各種工場、駐車場、住宅地として利用されている。このように旧軍跡地の土地改変は広い範囲で行われている〔A3〕。

### その他情報

#### (1) 小倉陸軍造兵廠について

- ・昭和15年4月、陸軍造兵廠は陸軍兵器本部に改組された。これに伴い、小倉陸軍工廠は「小倉陸軍造兵廠」に改称、同時に城野の小倉陸軍兵器支廠は「小倉陸軍兵器補給廠」に改称され、それぞれ陸軍兵器本部の直属となった〔A4〕。
- ・小倉陸軍造兵廠（北九州市）は第1製造所から第3製造所まであり、砲弾は第3製造所で製造されていた〔A4〕。
- ・小倉陸軍造兵廠周辺には、小倉造兵廠関連施設（検査地、営舎）、小倉造兵廠山田弾薬庫、陸軍兵器補給廠等の軍事施設が存在していた〔A5〕。

#### (2) 山田填薬所（山田弾薬庫）について

- ・元曽根兵器製造所関係者から得られた情報として毒ガス弾等は、小倉造兵廠の完成品貯蔵所になっていた山田弾薬庫にも運んだとの証言があるとの記載がある〔A6〕。
- ・山田填薬所は、昭和16年9月1日に開設された。その規模は、終戦時の人数で兵隊約1,000人、工員約2,500人、学徒女子挺身隊約1,500人の合計約5,000人で火薬作業所は約20棟あったとの情報がある〔A1〕。
- ・山田填薬所は、昭和14年着工、終戦直前に竣工。小倉兵器支廠山田分廠として開設した。山田填薬所は、火薬の保管、装填所として、主に小倉工廠用の弾薬填薬所として使用され、「山田弾薬庫」と改称したとの情報がある〔A4〕。
- ・旧山田弾薬庫は、現在山田緑地として、自然とふれあい観察できる「利用区域」、環境保護を優先する「保全区域」「保護区域」にわけられて市民に利用されている〔A7〕。また、旧山田弾薬庫の敷地の一部は、昭和62年に大蔵省の所管から陸上自衛隊の所管となり、小倉駐屯地山田地区となっている〔A8〕。

#### (3) その他

- ・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔A9〕。

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 事案名                   | 小倉陸軍兵器補給廠（北九州市）の事案（福岡県 40 - 6 - 2）   |
| フォローアップ調査資料           | ・「終戦時各補給廠ノ化学戦弾薬ノ状況」（作成主体、作成年月日は不明）〔2〕  |
| 追加資料                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔A1〕</li> <li>・『北九州市史 近代・現代（行政・社会）』〔A2〕</li> <li>・「自衛隊施設の使用実態等調査書（業務資料）」〔A3〕</li> <li>・「小倉地区の主な軍事・軍需施設」〔A4〕</li> <li>・「小倉 城野（分）埋設物調査工事 報告書」〔A5〕</li> <li>・『平成16年度B/C事案における第2次地下水調査業務 報告書』〔A6〕</li> </ul>   |
| 平成15年度フォローアップ調査報告書の要約 | <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終戦時、小倉陸軍兵器補給廠(旧小倉市)に90mmあか弾が50,000発、小倉陸軍兵器補給廠長浜倉庫に100mmきい弾が80,000発保有されていたと記載されている〔2〕。</li> </ul>  |
| 新たな情報                 | <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉陸軍兵器補給廠跡地周辺では、昭和46年9月11日に2ヶ所から毒ガス弾（それぞれイペリット×1）が発見された事案がある〔A1〕。</li> </ul> <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉陸軍兵器補給廠跡地は、現在の陸上自衛隊小倉駐屯地城野分屯地となっている〔A2〕〔A3〕。</li> </ul> <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和15年4月、城野の小倉陸軍兵器支廠は「小倉陸軍兵器補給廠」に改称された〔A2〕。</li> <li>・小倉陸軍兵器補給廠の周辺には、山田弾薬庫等の軍事施設が存在していた〔A4〕。</li> <li>・現在の陸上自衛隊小倉駐屯地城野分屯地内の裸地全域において、埋設物磁気探査調査を実施している。その調査結果によると戦時中の不発弾等は確認されなかった〔A5〕。</li> <li>・環境省が実施した地下水調査の結果、毒ガス関連成分は検出されなかった〔A6〕。</li> </ul> |